

「森重昭さんについて考えよう」

(左右とも：佐賀新聞 2018.5.30 付)



米ボストン 被爆死米兵を 森さんが慰霊



28日、米ボストン北郊ローウエルの公園で開かれた戦没者の慰霊式でスピーチする森重昭さん(左から2人目) (共同)

【ローウエル共同】広島で米兵捕虜12人が被爆死した事実を明らかにした歴史研究者で被爆者の森重昭さん

28日は米国の戦没将兵記念日(メモリアルデー)。1945年8月6日に広島市内で捕虜として収容されていたため被爆し、後に死亡した米海軍艦載機の搭乗員フーマン・プリセットさん(当時19)ら米兵12人の名前が刻まれた慰霊碑の前で、森さんは米兵らの悲劇を振り返り、戦争の犠牲者を追悼した。



調査は「素手でトンネルを掘るような」作業だった。「なぜ米兵にこだわったのか」との非難の声が多く、孤立無援の日々、高額な国際電話代もかさんだ。苦勞はオバマ氏との対面で報われた気がした。「言葉を交わさなくても心が通じた。途中で調査をやめなくて良かったと心から思った」

米軍が広島に投じた原爆で亡くなった米兵捕虜の身元などを約40年かけて調べ、2年前に広島でオバマ米大統領(当時)と抱擁を交わした市井の歴史研究者が念願の初訪米を果たした。飛行機に乗ったのも今初

訪米目的は調査でたどり着いた遺族らに直接会うこと。だが戦後70年以上が経過し、高齢者が多く、生存者も少ない。「私の調査に、面識のない人々が海の方から手を貸してくれた。一人でも多くの人に会ってお礼の言葉を伝えたい」

森重昭さん(81)

初訪米した被爆者で歴史研究者の森重昭さん(81)は、機内から北米大陸を眼下に眺めながら「よくもこんな大きな国と戦争をしたな」と美惑した。被爆死した米兵の存在を巡って歴史に埋もれた事実を発掘し、同じ被爆者として米国の遺族に伝えようと奮起。会社勤めの傍ら、資料や証言集めて各地を奔走した。

恩讐超え 歴史的抱擁

(佐賀新聞 2016.5.28 付)

オバマ氏 広島訪問



広島市の平和記念公園を訪れ、被爆者の森重昭さんを抱きしめるオバマ米大統領=27日午後6時8分

「広島に原爆が落とされた翌年、私は17歳で上野の戦没者慰霊碑を訪れた。そのとき、私は初めて戦争の犠牲者について考えた。そして、戦争の犠牲者として死んだ人々の名前を知りたいと思った。そのときから、私は戦争の犠牲者について調べ始めるようになった。そして、2016年5月28日、オバマ米大統領が広島を訪れたとき、私は彼と抱擁を交わすことができた。それは、私の人生で最も大切な瞬間の一つだった。戦争の犠牲者について、私たちはもっと話し合えるべきだと思う。戦争の犠牲者について、私たちはもっと話し合えるべきだと思う。戦争の犠牲者について、私たちはもっと話し合えるべきだと思う。」

◎森重昭さんは、なぜ原爆で亡くなった米兵捕虜の身元調査などをいろいろな困難の中で、約40年もかけて調べたのだろう。